

甲状腺機能亢進症における甲状腺機能と甲状腺 CT 値との関係性に関する情報公開

1. 研究の対象

2014年4月1日から2020年4月1日の間に名古屋大学医学部附属病院で甲状腺機能亢進症と診断され、名古屋大学医学部附属病院アイソトープ PET 検査室において I-131 内用療法を行なった方

2. 研究目的・方法・研究期間

I-131 内用療法の投与量決定方法には、投与量を一定にする方法、重量別に質量当たりの投与量を決める方法、Marinelli-Quimby の式を用いた方法があります。しかし、甲状腺機能を正常にする投与量決定方法は未だ確立していません。甲状腺機能亢進症では甲状腺 CT 値が正常の甲状腺より有意に低いという報告があり、甲状腺 CT 値は甲状腺機能と関係している可能性があります。もし甲状腺機能と甲状腺 CT 値に関係があれば、甲状腺 CT 値を利用したより正確な投与量決定方法の構築が期待できます。

本研究では、甲状腺機能亢進症の甲状腺 CT 値変化の要因を探索することにより、甲状腺 CT 値と甲状腺機能・形態との関係性を調べます。また、甲状腺 CT 値との相関が認められたパラメータを用いて、I-131 内用療法の投与量決定方法を構築できるかを検討します。

甲状腺機能亢進症と診断され、放射性ヨウ素内用療法を受けた患者データを名古屋大学医学部附属病院の診療データ（カルテ等）から選択します。これらの症例は内用療法前に頸部 X 線 CT 検査、採血検査、尿検査、甲状腺ヨウ素摂取率検査を実施しているため、本研究では、これらの検査結果を後ろ向きに解析します。

まず、X 線 CT 画像上の甲状腺に SyngoVE32B (Siemens) ソフトで関心領域を設定し、甲状腺の平均 CT 値を算出します。算出した甲状腺平均 CT 値と甲状腺重量、24 時間ヨウ素摂取率、有効半減期、遊離トリヨードサイロニン (fT3)、遊離サイロキシン (fT4)、甲状腺刺激ホルモン (TSH)、抗 TSH レセプター抗体 (TRAb)、尿中ヨウ素濃度、eGFR、抗甲状腺薬の服用歴との相関を調べます。

本研究は、実施承認日から 2022 年 3 月 31 日までの期間内に行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：採血検査、尿検査

情報：頸部 X 線 CT 検査、甲状腺ヨウ素摂取率検査等の検査データ、病歴、年齢、性別等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

しかしながら、解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻

名古屋市東区大幸 1-1-20

TEL 052-719-1504

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻先端情報医療学領域

バイオメディカルイメージング情報科学医用機能画像評価学講座

教授・加藤克彦

名古屋市東区大幸 1-1-20

TEL 052-719-1504

katokt@met.nagoya-u.ac.jp